

シンポジウム「健康で日本を元気に」

パネルディスカッション

「健康づくり・疾病予防と経済・財政再生プラン」

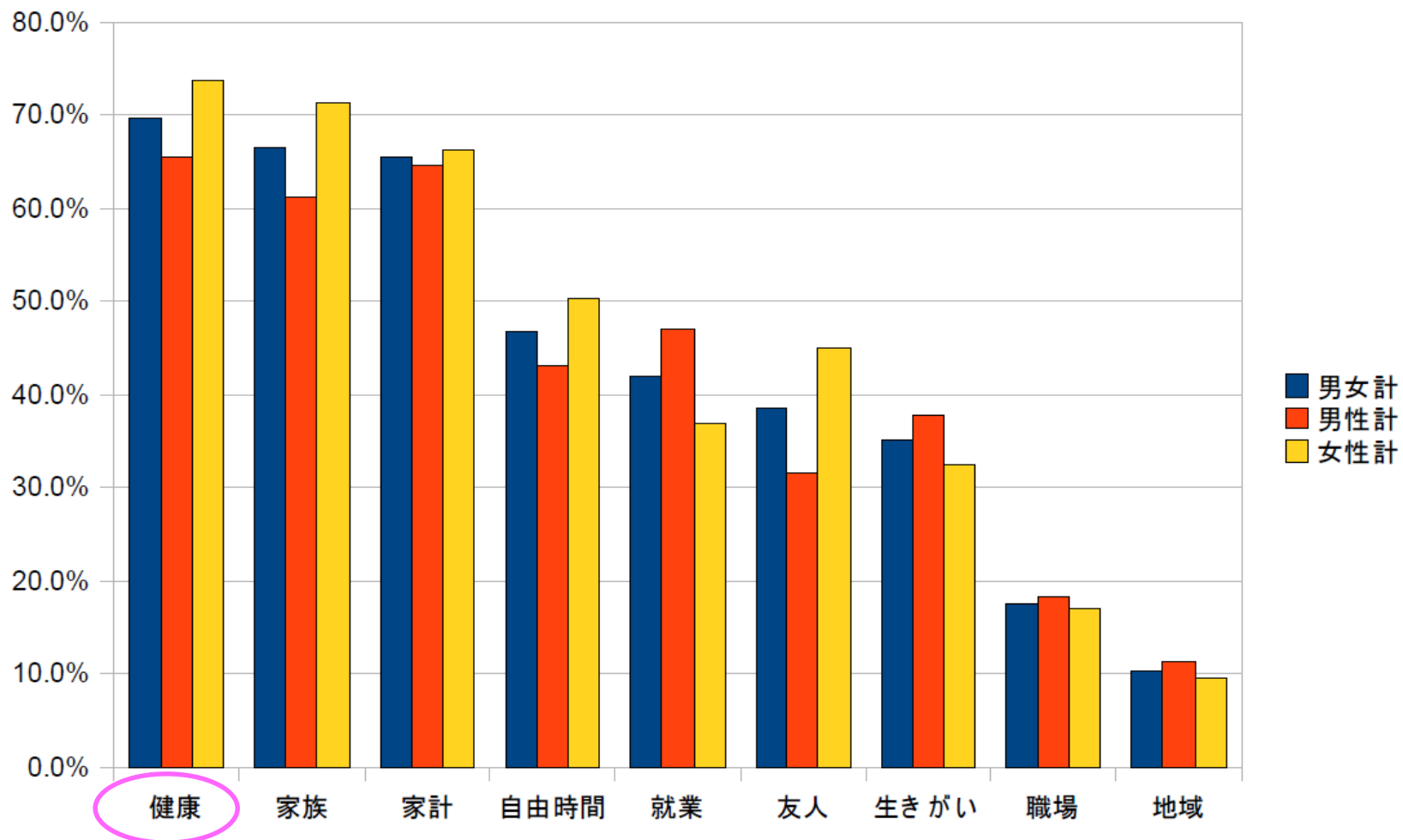
「健康と経済」

2016年6月16日

黒田祥子

早稲田大学

幸福度を判断する際の重視する項目



内閣府平成21年「国民生活選好度調査からみた幸福度」資料より

- ✓ 「健康」は、幸福度を規定する一番の要素。
- ✓ ほとんどの年齢層において、「健康」は1位

- ミクロレベルでは・・・

- ➡ 多くの人が健康でありたいと思っている。

しかしながら・・・

- ・ 健康であり続けるには「費用」もかかる。
- ・ 健康がいいことだと分かっているにもかかわらず、日々の努力はめんどくさい。
- ・ 自分だけは、大丈夫だと思っている。

cf. 行動経済学の知見

コントロールラブルと思いがちなもの:

→自分を過信しやすい。例) 車の運転、健康、資産運用

アンコントロールラブルと思っているもの:

→過度にリスクを回避する傾向。例) 災害、テロ、飛行機事故

- マクロレベルでは・・・

- ・ 高齢化が進む日本：

医療費の抑制が重要なことは理解されている。

- ・ しかし、個々人にしてみれば、「国家財政のために、普段から健康に気を付けよう！」と思う人は少ない。

→健康増進へのインセンティブはわきにくい。

- ・ 「健康を損ねることがいかなる損失になっているか」は見えにくい。

⇒国民が健康でないと、どれだけ損なのか？

⇒健康になることが、なぜ生産性を高めたり、経済成長につながるのか？

➔ 「健康と経済」について考えてみる

「健康と経済」：3つの視点

- ①健康と賃金との関係
- ②健康と生産性との関係
- ③健康と経済成長との関係

①健康と賃金

- ・健康保険料率の上昇分：労使折半

事業主負担分の上昇（労働需要側のコストの上昇）

→雇用者の賃金の低下 and/or 雇用の減少 and/or 非正規との代替

→賃下げや失業の増加→税収の減少→社会保障費のさらなる抑制が必要に

∴健康増進→医療費の抑制→健康保険料率の抑制
→賃上げ→増収&経済再生

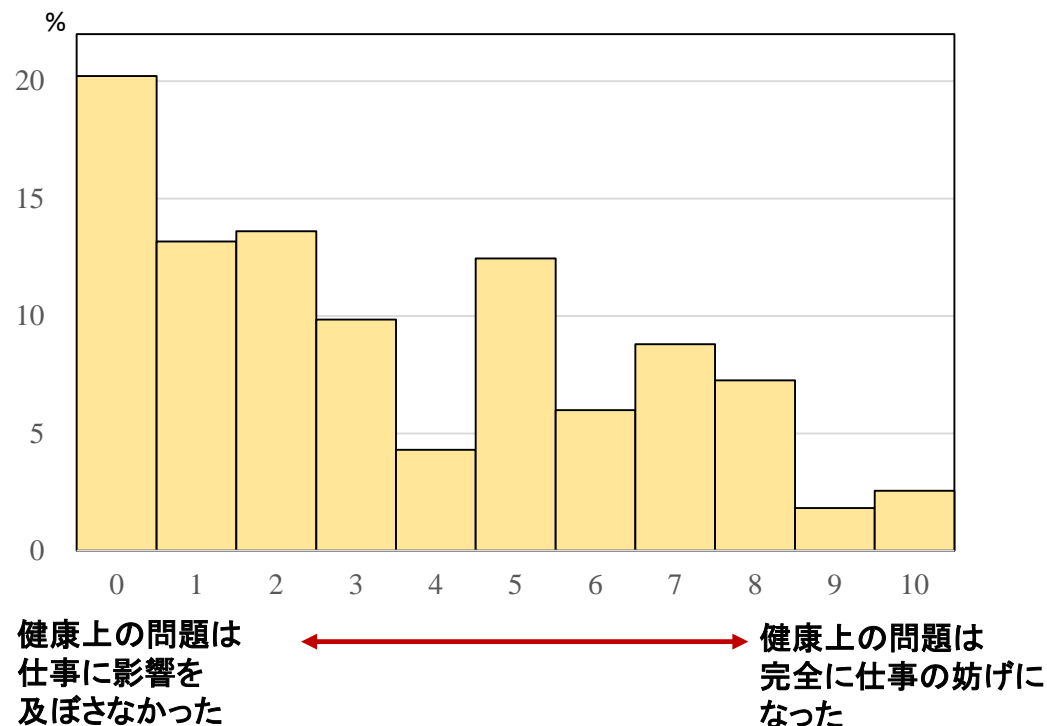
②健康と生産性

- ・ 高齢者の健康、健康寿命等に注目が集まりやすい
→ 現役世代の健康は・・・？
 - 「アブセンティイズム」：欠勤や傷病休暇の日数
 - 「プレゼンティイズム」：出勤はしているが、健康上の問題から生産性が低下
- ・ 20-50歳台、通院者数の上位3位（歯の治療を除く）
→ 「うつ病やその他の心の病気」が多い。
- ・ 従業員のメンタルヘルスは、企業業績に影響？

● 主観的生産性（日本のホワイトカラー正社員:5,613人）

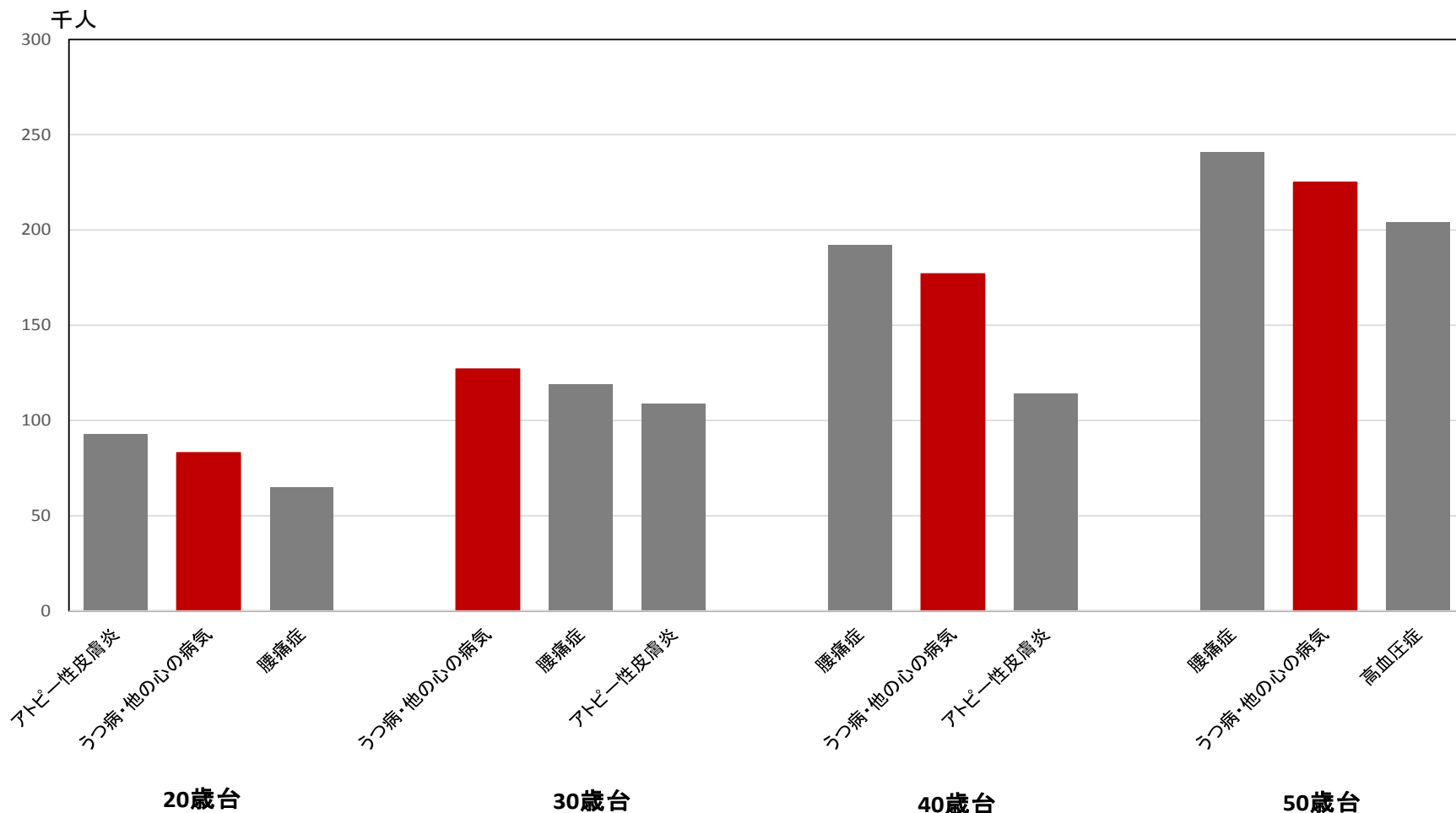
WPAI (Work Productivity and Activity Impairment Questionnaire)

「この1週間で、仕事をしている間、健康上の問題がどれくらい生産性に影響を及ぼしましたか？」



- ✓ 生産性に全く影響なかったと答えたのは2割のみ。
- ✓ 20%以上の労働者が7以上を選択：普通に就労している人の中でも生産性が非常に低い労働者もかなり存在することを示唆。

● 年齢別の傷病別通院者数（上位3位まで、男性）



厚生労働省平成25年「国民生活基礎調査」から作成

✓ 現役世代の病気：「心の病気」が上位を占める

約400社の民間企業

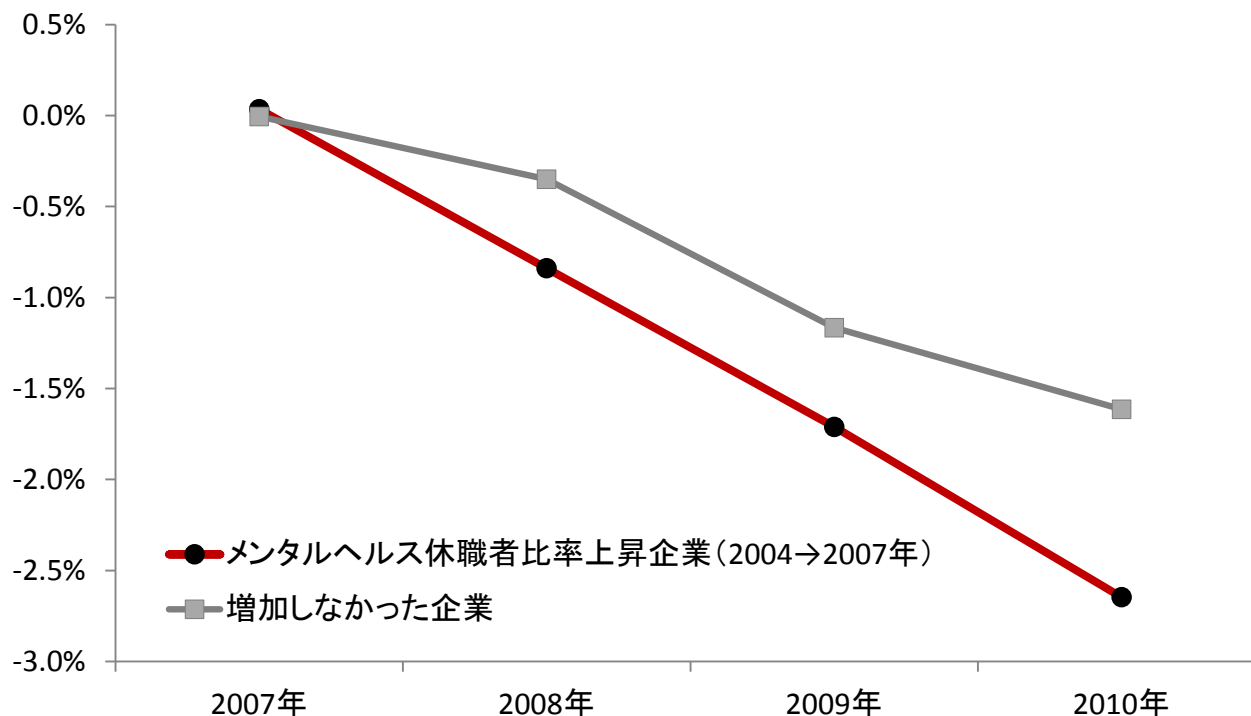
(従業員のメンタルヘルスに関する
情報と、財務データをリンク)

2004→2007年にかけて、
メンタルヘルスが理由
で退職した従業員が
増加した企業

2004→2007年にかけて、
メンタルヘルスが理由
で退職した従業員が
増加しなかった企業

● 労働者のメンタルヘルスと企業業績

▶ 売上高利益率との関係

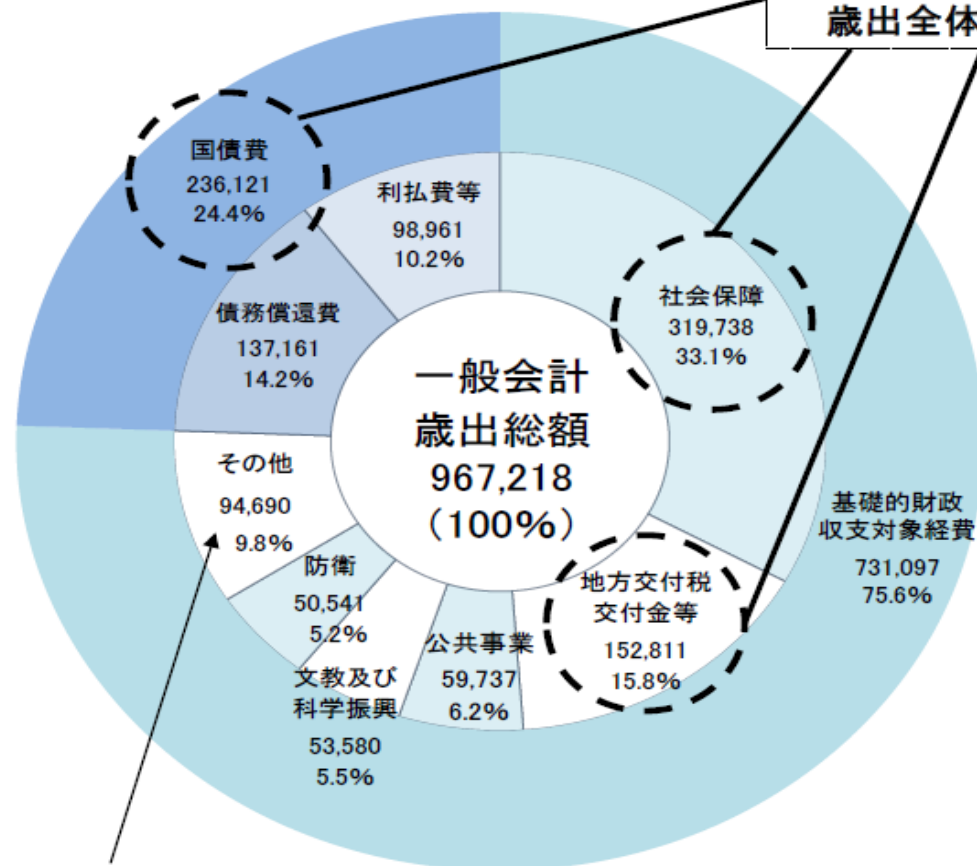


- ✓ 2004年から2007年にかけてMH休職者比率が上昇した企業は、そうではない企業に比べ数年後の売上高利益率が低くなる傾向

③健康と経済成長 (続き)

【歳出】

3項目で
歳出全体の7割



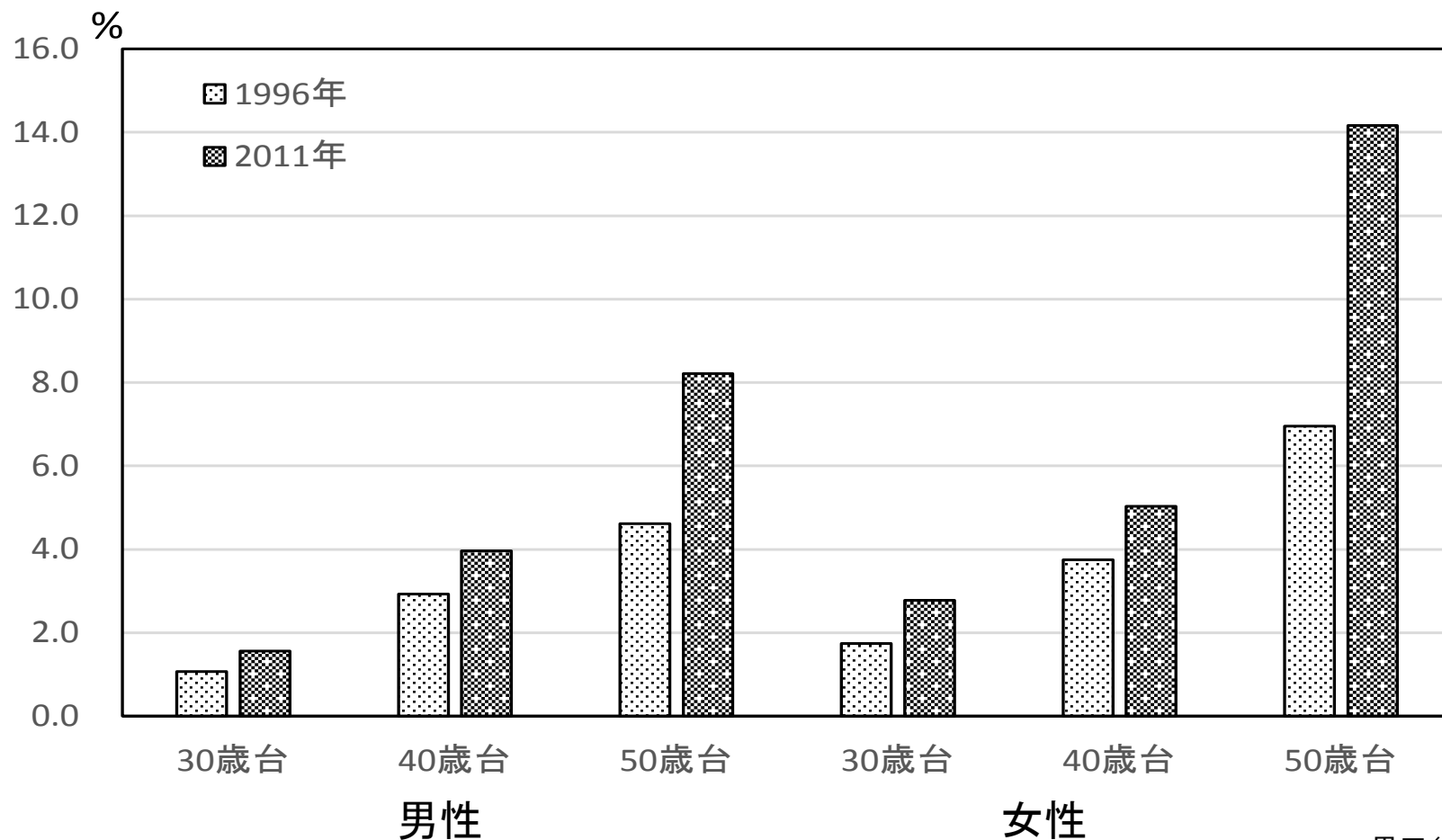
教育、子育て支援、
難病の解明、その他
研究開発投資等、
経済成長に直結する
支出(投資)への振り
替え

食料安定供給	10,282	(1.1%)
中小企業対策	1,825	(0.2%)
エネルギー対策	9,308	(1.0%)
恩給	3,421	(0.4%)
経済協力	5,161	(0.5%)
その他の事項経費	61,193	(6.3%)
予備費	3,500	(0.4%)

財務省「平成28年度一般会計予算」

③健康と経済成長

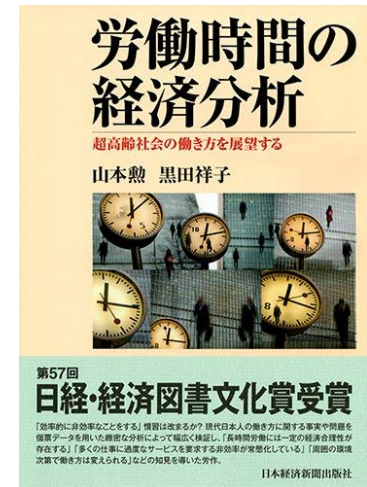
正社員（年齢別）に占める介護をしている人の割合



黒田(2014)より

✓ 50歳台男性の8%、女性の14%は働きながら介護をする時代に。

ご清聴、ありがとうございました。



参照文献

- ・黒田祥子、「中間の年齢層の働き方 — 労働時間と介護時間の動向を中心に」、『日本労働研究雑誌』No.653、12月号、労働政策研究・研修機構、2014年、59-74頁。
- ・内閣府、平成21年「国民生活選好度調査からみた幸福度」資料
- ・山本勲・黒田祥子、『労働時間の経済分析--超高齢社会の働き方を展望する』、日本経済新聞出版社、2014年